

炭酸カルシウム水和剤 クレフノン	取扱メーカー： 白石 原体メーカー： アグロケミテック
成分： 炭酸カルシウム……………95.0%	性状： 類白色水和性粉末 毒性： 普通物 消除法： ——

【品目特性】……………

- りんごの非ボルドー防除時に発生する果実の表皮障害及び生理障害を防止する農薬であり、果実品質の向上に役立つ。また、すべての有機殺菌剤と混用散布ができるので、使い方も簡便である。
- みかんの果皮の表面をカルシウムが被膜するので、乾きやすくなり、又はカルシウムの粒子が果皮の気孔に入り、水分の蒸散を促すため浮皮の防止作用や出荷予措、貯蔵予措を促進する。
- 晩柑類（はっさく、ぶんたんを除く）の着色促進効果がある。
- 銅水和剤による薬害軽減に役立つ（銅水和剤と混用して散布する）。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 混用した散布液はできるだけ早目に散布する。時間がたつと沈澱するので攪拌してから散布する。
 - 変質することはないが、なるべく乾燥した場所に保存する。
 - クレフノンは生石灰と異なり、硫酸銅とは反応しないので、ボルドー液の原料には使用できない。
 - 散布後、散布機具はそのまま放置せず、直ちに水で良く洗滌しておく。
 - 初めて使用する場合には、病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 〈果実の表皮障害の防止に使用する場合〉
- 非ボルドー液防除体系での有機殺菌剤による果実の表皮障害を防止するため、それらの有機殺菌剤に混用して使用する。
 - 落花後約2カ月間は果実の表皮障害の発生しやすい時期であるので、特にこの時期の有機殺菌剤

散布時に混用使用すると有効である。

但し、かきの場合は果実の生長期（6～9月）が表皮障害の発生しやすい時期なので、この時期に混用使用する。

- かきの場合、有機殺菌剤によって影響される黒点状、破線状の表皮障害は本剤の混用によって軽減されるが、生理的な雲形状の障害の阻止は期待できない。

- 散布の際は、混用する有機殺菌剤の使用条件を厳守する。

〈銅水和剤に混用して薬害軽減に使用する場合〉

- 収穫間近の散布は果実に汚れを生じるので留意する。

- 散布の際は混用する銅水和剤の使用条件を厳守する。

〈かんきつの浮皮軽減に使用する場合の注意〉

- 樹上での浮皮軽減には10月中、下旬～11月上旬、貯蔵中の浮皮軽減には11月の収穫前に1回散布する。

但し、収穫間近の散布は果実に汚れを生じるので留意する。

- 散布後の降雨は効果を減ずるのでできるだけ晴天の続くことを見定めて散布する。

- 貯蔵する場合は本剤を処理した果実においても過湿過乾にならないように貯蔵条件に留意する。

〈みかんの果皮水分の調節に使用する場合〉

- 収穫後の予措のかわりとして、収穫前に樹上において、予措を行うために、使用するものであり、収穫の1カ月前から収穫直前までの間（なるべく収穫1～2週間前）に1回散布する。

但し、収穫間近の散布は、果実に汚れを生じるので留意する。

- 効果の程度は、天候、樹勢などによっても異なり、収穫時に果皮水分の減少が不十分な場合は収穫後に予措を行って効果を補足する。

●浮皮軽減についての注意も守る。

〈晩柑類（はっさく、ぶんたんを除く）の着色促進に使用する場合〉

●着色前の散布は効果がないので、果実の2～3分着色時から完着までに2～3回散布する。

〈パイナップル果実の日焼防止に使用する場合〉

●単用では効果がないので必ず固着のための展着剤を加用（10倍）する。なお、展着剤を多く加用すると果面の汚れを生じるので、所定の使用濃度を厳守する。

【適用と使用法】

作物名	使用目的	希釈倍数	本剤の使用回数	使用方法	炭酸カルシウムを含む農薬の総使用回数
晩 柑 類 (はっさく、 ぶんたんを除く)	着色の促進	50 倍	—	収穫1ヶ月前から収穫 10日前までの間に 2～3回散布	—
み か ん	浮皮の軽減及び果 皮水分の減少促進 (予措効果)	100 倍		収穫1ヶ月前から収穫 直前までの間に1回散布	
か き な し	非ボルドー液防除 体系有機殺菌剤に よる果実の表皮障 害防止	50 倍		非ボルドー液防除体系 有機殺菌剤に混用して 散布	
り ん ご		80～ 100 倍			
ぶどう,くり,核果類 (うめ, すももを 除く)		100 倍			
び わ か ん き つ う め す も も い ち じ く	銅水和剤による薬 害の軽減	500 倍		銅水和剤に混用して散布	
キウイフルーツ		200 倍		発芽期以降銅水和剤に 混用して散布	
パイナップル	果実の日焼防止	2 倍		1果当り5～10ml散布 又は塗布	
野 菜 類	銅水和剤による薬 害の軽減	100～ 200 倍		銅水和剤に混用して散布	